

8-4-19 道路専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 道路専門委員会の開催

委員会開催回数：9回（4月～1月）

(2) 対外活動

a) RCCM 登録更新教材の更新

「道路」及び「トンネル」について改訂作業を行った。両分野とも、法や基準の改訂に伴う修正、出典や演習問題の整理・調整を実施した。

b) 視察（支部との連携強化）

例年実施していた、道路交通技術に関する施設の現地での知見・知識取得や支部との交流を目的とした視察は、昨年度に続き、本年度もコロナ禍を踏まえ取りやめとした。支部との交流強化や知見・知識の修得は、委員会として必要かつ重要課題と認識しているため、次年度は、社会状況を踏まえた上で実施を検討する。

c) WG 活動

当委員会では、以下の主な5つのWGの活動記録について記述する。

① 設計システム WG

委員会社の若手技術者が集まり、「性能照査型道路計画・設計」に対して、これまでの研究を継続して活動を行った。昨年度に引き続き、「機能階層型道路ネットワークのためのガイドライン(案)」（交通工学研究会発刊）をブラッシュアップするため事例検討を継続した。

② 品質向上 WG

過年度から継続し、設計ミス防止、品質向上を目指した「品質セミナー」の実施に向けてのエラーの事例集収集、作成及びセミナー講師として参画した。「道路・トンネル」部門は多数受講され、高評価を得た。

③ 勉強会 WG

令和4年1月に道路専門委員会セミナー「高精度3次元地図データと今後の活用」を開催した。本年度も、コロナ禍の開催となったこ

とから、セミナーは当専門委員会委員のみ参加し、協会員へは後日（3月）、協会HPからのアクセスによるビデオ配信とした。

- ・ 講師：ダイナミックマップ基盤株式会社
営業部執行役員営業担当部長

山下 元之 様

- ・ 目的：今後の道路インフラのあり方を考えるうえで、自動走行などのシステムが使用する高精度な地図（HD マップ）の特性とその利活用方法等の知見・知識を習得する。
- ・ 背景：近年、高速道路等の自動走行に注目が集まっており、今後の道路インフラのあり方を考えるうえで、自動走行などのシステムが使用する高精度な地図の特性とその利活用について理解することが重要である。また、効率的かつ有効な道路管理の必要性が高まっている。
- ・ 内容：最先端・高度技術の高精度3次元地図データ技術を中心に、自動走行に向けた道路インフラの基礎となる地図データの概要や、今後の活用方法、国や地方自治体による防災・減災対策への適用紹介など。

④ 対外活動 WG

NEXCO 総研とは設計歩掛、首都高速道路（株）とは歩掛、仕様書等の意見交換を行った。

上記の他、働き方改革による就業環境改善についても意見交換を行った。

⑤ 無電柱化 WG

無電柱化 WG では、昨年度の継続で、国土交通省 無電柱化推進部会コンサル WG に参加し、低コスト化に向けた技術開発を推進した。

d) CIM・i-Construction への取り組み

国交省、及び国土地理院の活動に参加した。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施するとともに道路、トンネルを取り巻く課題に取り組む。

（道路専門委員会委員長 石村 佳之）